

# ふじみの



No. 29

東京農大畜友会



## 卷頭言

畜産学科長 渡邊誠喜

「ふじみの」第二十九巻の刊行に当り、一言ご挨拶を申し述べる。

平成元年度の本学科卒業生約一七〇名の諸君、ご卒業お目出度く心よりお慶び申します。今、まさに農業の改革のときであり、微生物はもとより、作物については、ニューバイオテクノロジーの発展、利用により新しい生産物、植物が作り出されている。畜産学領域では目下の処、借り腹による受精卵（胚）移植、体外受精胚の作製、クローン動物の生産である。昨年の丁度今頃、富士畜産農場で乳用種のジャージーから黒毛和牛（雌）子牛が誕生した。これが、わが東京農業大学バイテク第一号の牛である。その後、順調に発育して現在、体重二〇〇kg以上に達し立派な雌和牛に育ちつつある。



さて近来CIあるいはUIなる言葉がよく用いられる。CIすなわち Corporation Identity、UIすなわち University Identity である。更にPIなる言葉も巷で使われている。PIすなわち Personal Identity である。学生の皆様が畜産学領域での基礎的学問、新しい分野での技術の研鑽も重要であるが、自己のPIを見出し、これを研くことを忘れないで欲しいものである。卒業されていく諸君は、卒業即生涯学習の始まりである。この四年間に培われた知識と巾広い応用力とをもって、更に豊かな人間性を培って欲しいものである。時流にながされる事なく、よく自己を見つめてもらいたい。社会は諸君の活躍を期待しています。活躍の場は無限にあります。

最後に再度、心よりお祝い申し述べ挨拶と致します。

平成二年二月吉日

### ふじみの発刊にあたり

畜産学科三年 中 井 義 成

90年代に突入し世の中は二十一世紀へ向けて本格的に動き出した今年「ふじみの」も二十九号を発刊することになりました。

さて、本誌は畜産学科の先生方、学生達の手で作られています。また昨年一年間の事業報告、決算報告などを記載しています。決して良くできたとは言えませんが、どんな本にも負けない「心」があります。どうかこの「心」を受け取って隅から隅まで読んで下さることを願っています。



ふじみの  
目次

第29号

巻頭言

渡邊 誠喜 1

同窓会だより

総務 近江 弘明 12

ふじみの発刊にあたり

中井 義成 3

畜産学科同窓会より  
ごあいさつ

総務 近江 弘明 12

御一報

6

集う学友

13

家畜飼養学の明日

教授 杉村敬一郎 6

家畜人工授精師講習会を終えて  
私が思ったこと

四年 神谷 悦寛 13

たかが犬の餌、  
されど犬の飼料

助教授 伊藤 澄磨 8

私の「スパゲティ外論」

四年 ランディ吉川 14

手を高く掲げて  
謳歌しよう

嘱託教授 鶴田文三郎 10

OVERSEAS

三年 外丸 祐介 15

「フラメンコ」ってナニ？

三年 あさいさつき 17

一年を終えて

一年 村山 道彦 18

研究室だより

20

畜魂

三年 細野 淳 41

畜産物利用学研究室

20

北門装飾を終えて

三年 松坂 道昭 43

家畜育種学研究室

23

結果報告

48

家畜飼養学研究室

25

第97回収穫祭畜産学科統一本部決算報告

49

家畜生理学研究室

27

畜友会だより

50

家畜衛生学研究室

28

平成元年度臨時総会報告

50

畜産経営学研究室

30

平成二年度定期総会報告

50

家畜繁殖学研究室

32

平成二年度畜友会役員名

50

収穫祭だより

35

平成元年度畜友会決算報告

52

「畜魂、燃ゆ」

三年 中山 浩 35

宣伝隊を終えて

三年 中井 義成 36

前夜祭・特別企画

三年 三堀 太郎 37

委員長を終えて

三年 高野 慎哉 40

編集後記

59

委員長を終えて

三年 三堀 太郎 37

畜友会規約

56

平成二年度畜友会行事計画

55

学内スポーツ大会結果報告

54

平成元年度畜友会事業報告

53

平成二年度畜友会役員名

50

平成二年度定期総会報告

50

平成元年度臨時総会報告

50



## 家畜飼養学の明日

教授 杉村 敬一郎

およそ、ものごとには「成熟認識」と云うものがある。例えば或る商品とか企画とかが完成したり、売れ行きが軌道に乗ったり、意図が広く知られるようになったことを主体者が覚知することである。商業の社会にあっては、此の「成熟」は直に「危機意識」に繋がって行く。つまり、もう次の展開を考え、新商品を開発しなければ、他に社に負けてしまうと云う感じを抱くことである。

学術の世界も勿論これと同様であって、或る事象が解明されれば、研究者はすぐ次のことを考えている。しかし乍ら、ここに教育とか伝達などの要素が入って来ると、よほど大きな革新が実現しない限り、そのノウハウは温存され、永く伝えられなければならない。家畜飼養学で最も主要な概念は可消化養分の総量と云うことであるが、これも、その測定法を含めて既に百年ほど前に完成した概念である（一八九六年レーマン）。逆に考えれば、この可消化養分総量と云う考え方とか、キエルダールの全窒素の定量法のように百年経ってもまだ用いられると云

合物をどうやって得るか？ 之にはアミノ酸集積菌でも活用したらどうだろう。アミノ酸工業でスクリーニングした莫大なデータが必ずある。さらに自動増殖制御をどう乗り超えるか？と云う問題もある。

そもそも、「農」即「大地」と云う觀念がおかしいのである。土の男の誇りを持って勉強している男子学生、母なる大地に自分の想いをのせて修業中の女子学生。そこでこのようなことを云えば嫌われてしまうけれど、地球がこのようであったから、植物はたまたま根を張って、土中に養分があったから之を吸収しているのだから、根、莖、葉の姿を保つための支えが大地である。之はイナートサポートだと考えても少しもおかしくはない。はじめは単一の細胞だったものが、たまたま集ったら、周辺のものより能率が良くて、そのチームが生き残り、億年の単位の日数をかけて組織となり器官となり固体となったと信ぜられている。単細胞のままで良かったものは今でも単細胞である。とすれば、根の細胞の膜系が養分を吸い、葉の細胞の緑が太陽エネルギーを利用する。そこに大地が介在する必要は少しもない。問題は養分の吸収よりもむしろ光エネルギー受容の方であらう。下の方の葉はカゲになって太陽光がとどかないから、地表を横に横にと拡げて行かないと緑が活躍出来ない。人口百億にでもなったら一体どうなる？ ここで効率良く太陽光の当るシステムを作り緑の物体も能率の高いものをセレクトするなどして、横へ拡がる必要面積を減らせば、食物を作

うことは、それ自体がいかにも優れているかの証據でもある。このような貴重な方法論を正しく伝承する教育を行い、積み重ねられた体系を理解させながら、危機意識を以って新しい展開を一方において模索しなければならぬ。我々は両刃の剣で戦うことを強いられている。

企業では経済問題と直結するから「危機意識」は直ぐに出て来る。しかし、大学のような処に在ると自分たちの学問体系が成熟すると「危機」ではなくて「御満悦」の心に陥りやすい。家畜飼養学のように、その体系の大半を技術のレベルに譲り渡してしまった後は、研究すると云っても、技術改良の範囲内での研究しなくなってしまう。各大学とも突破口をどのように開くかを考えている。

発想を全く転換して、動物組織や細胞レベルでの畜産もその一つの方向だと筆者は考える。ニワトリをその姿で育てて、之を屠殺するのではなく、原動物は保存しておいて、必要な組織や細胞を採って、之をインビトロで増殖させる方法である。之が生産としての採算性を持つに至るまでは気が遠くなる程のハードルを越えなければならぬ。第一に動物細胞はキモトローフでしかもヘテロトローフである。このぜいたくきわまる細胞のためには高級な化学物質の形で炭素を与えなければならぬ。隣接系に緑のフォトリックの細胞を能率良く作動させそこから人工膜系でも通して必要なエネルギー源を動物細胞の系に導入する。もう一つの難問は高級な含窒素化

するための面積は減る。減った分は森林のような「住」の環境に還してあげれば、大気も改善されると云うものだ。筋肉タンパク質が生成されるまでに、インビトロでは一体何通り位の仕組みが之に関与して来るのか。物質の変換あり、伝達あり、エネルギー補給、環境対応など、要因は膨大な数である。でも、今のコンピューターの能力を考えれば、何時かは完成する。

こんな研究にもつれ込むと、とりあえず現今の生産技術とは係りの少いものになる。でも、今から進めて、全く新しい食物生産方式の実現を図るべきであらう。

日本の農業を、自分の家の営農を何とかして立て直そうと志ざして学生さんが入学して来る。大学はどう云う抜本的な答を提供出来るのか？

よほど問題が収斂すれば遺伝子の組み替えだけでも、その周辺に課題がまだいくらかもある。よその大学みたいに名前を変えて逃げるのはいやだ。百年かかってもしも真正面からぶつかってやろうと筆者は思っている。さもないと家畜飼養学に明日はない。



## たかが犬の餌、されど犬の飼料

助教授 伊藤 澄 磨

昨今のマスコミの宣伝ソースの内ペットフードに関するものが多い事、本当に驚くばかりです。世の中ペットブームと云われておりますが、それを反映するものでありましようか。又家庭内に於ける伴侶動物としてステータスが確立した証拠とでも云えましよう。

その流通量は年を追う毎に増加しています。輸入量も昭和61年度に急上昇しています。

(第一、二図参照)

これらの価格を推測すれば犬関係約五〇〇億円、猫関係約一〇〇〇億円となり、一〇〇〇億産業も目睫の間と考えられます。

或る調査に依ればそのシェアは犬30%、猫25%とあり、国中の70%の犬と75%の猫がフードの味を知らないとあります。これらを100%にするには今後30年は必要であらうと云う観察です。

今年でドッグフードなる飼料が世に現われて30年の月日が流れました。それ以前は犬猫は居りましたがそんなものはありません。犬のほとんどが狸の様なムクムクした柴犬の種、猫は和猫、のみであり昭和30年には日本に

約八〇〇万頭居ると推量されてきました。

当時、東京都内約五〇〇〇頭の犬の食性調査をした結果、約90%が「御飯の残りに味噌汁がけ」でありました。稀に白菜のツケモノ、沢庵もあり極く一部に「松阪牛のヒレ」、「鯛のテリ焼」なんて云うものがありました。大型犬(主に秋田犬)は残飯味噌汁プラス豆腐粕、これが平均でありました。栄養学、飼養学以前の話であります。従ってグレーファウンドは幼犬は全てクル病になる為繁殖不能、ニューファウンドランド、グレートデン、セントバーナード、等の巨大種の三代目は矮少となり駄目、そんな所から狸様の犬だらけであったと思います。

そんな時、発想したのが「彼等達にバランスのとれた食事を与えられたら」と云う事でした。先ずは文献調べ、すでに当時NRCのスタンダードがありました。しかしその内容は動物蛋白質即ち肉の量でとても当時の日本人の懐中では処理出来ません。日本に只一つありました、「日本帝国陸軍軍用犬飼育書」と題するもので、「8貫目のシェパード種の日補給量は休息、軽運動時に三〇〇〇カロリーとする。」この程度でありました。

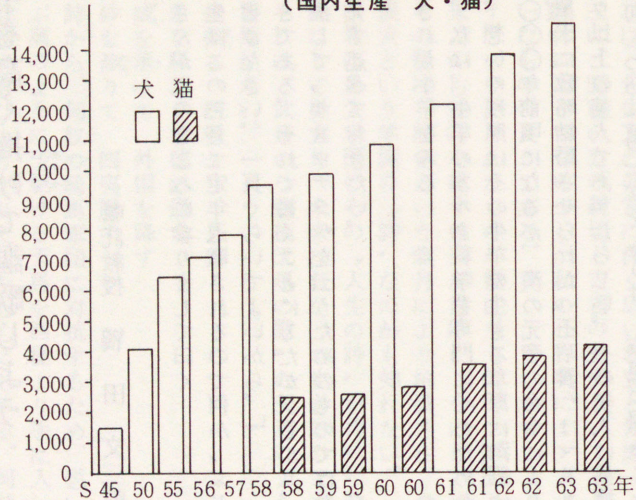
二年間の動物実験の結果、一月50kg売れる様になり、やがて1t、10tと増え現在の量となったわけです。

天気の良い休日、拙宅の脇、杉並の神田川沿いの遊歩道はペット天国となります。ほとんどの犬種が見られます。いずれも礼儀作法を心得たペット達です。大中小の

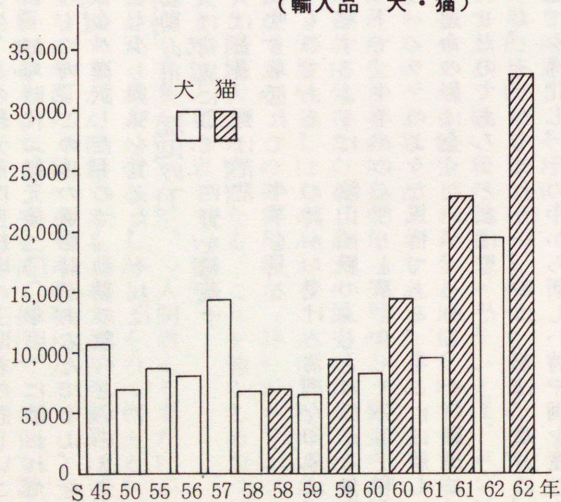
日本犬が多い様ですが狸様なものなどは全く無く端麗な気品を漂わせています。ブローニユの森に居ても違和感を感じないでしょう。

私「御飯は何をお好みですか？」

第1図 ペットフード生産量の推移  
(国内生産 犬・猫)



第2図 ペットフード輸入の推移  
(輸入品 犬・猫)



畜主「ドッグフードです。」

私「して銘柄は？」

畜主「〇〇〇〇です。」

平和で幸福な世の中となりました。



## 手を高く掲げて謳歌しよう

囑託教授 鶴田文三郎

学生さんが私のところに参りまして曰く

「先生はこの三月で定年退職されるので何か『ふじみの』に書きなさい。一頁ぐらいでよいから。」

とのことである。それで書くことにしたが、しかし、これは、決して『サヨウナラ』を云うためのものではないことを先ず述べておきたい。

浄化された牛羊をみる

さて、私は、牛羊のミルク科学を専門にしたためか、何時も、想いの残照はその牛羊の生きる草原に躊躇する。

約二〇〇〇年前頃になるが、漢の元帝の命令により、匈奴王單于に政略結婚させられた『王昭君』はマリリンモンロー以上の美人であつたらしい。その美人は異郷の地で絶句しつゝ一男一女をもうけ、古里に帰ることなく、その異郷の匈奴の地で死んでいった。

二年前、その地を遍遊するチャンスに恵まれた私は、その王昭君のお墓も訪ねた。しかし、彼女の悲辛の生涯に対する慟哭は全く覚えなかつた。むしろ抒情を感じた。私を案内し、共にその墓を訪ねた中国娘も同じようであつた。その娘は、

あつた。その娘は、

「先生、この紀元前四世紀頃の王昭君の悲しいことと違い、鮮卑時代（紀元後二〇〇年頃）に歌われた平和そのものの、この地の風影詩があるんですよ。それを解律金が漢訳したもので、『勅勒の歌』といいます。」

と。私も少し興味を覚えた。それは、

勅勒の川 陰山の下

天は穹廬に似て 四野を籠蓋す

天は蒼蒼 野は茫茫

風吹き草低れて 牛羊を見る

というものである。この詩から受ける清冽な印象は、どなたも感ずるように、陰山山脈のふもとに広がる無限の青空の下で、牛羊がのんびりと草を食んでいる平和そのもののパノラマのような風情である。そこには悲しい王昭君の運命の影は全くないが、しかし、その影がこの詩を歌わせたのであろうと私は思った。

そうだ。そうかも知れない。時は、年は、歳月は、過去の総てを浄化し、その中から新しい詩や画を産むのかも知れない。過去のことが大きければ大きい程、産まれる詩もその影を映じて美しい。この詩の牛羊は王昭君の化身かも知れないと。

次代の天馬にのつて

私が農大で皆さんと共に呼吸し、生きたのは五年間である。その歳月は短いので、総てを浄化してくれるとは

思わないが、詩になると思わないが、でもその記念は大変大きいものであつた。それは直接的に誰先生に教えられたというのではなく、農大のアトモスにより自ら知つたもので、

その一は、学生諸君の素直な人間らしい人生観。

その二は、先生方の非常に深く広い教養と知識。

その三は、図書の方の親切と古書の充実。

などが媒体になつて、いつしか私の心の奥にインプリントされていたものようである。

このインプリントされたものが糧になり、ペンが走り、農大に来てから五〇を越す雑文が書けた。今になって思えば、その糧は、歴史という歳月により培養され、浄化された農大という学園の『詩』なのかも知れない。

学生諸君は農大学園のその『人生の詩』を得つつ学び、それを糧にして巣立ち、未来にむかつて生きるのであらうが、それは、武帝の『西極天馬の歌』の天馬のようなものかも知れない。

天馬徠る 西極より

万里を経て 有徳に帰す

靈威を承けて 外国を降す

硫砂を渉りて 四夷服す

この詩から、匈奴の騎馬軍団に対抗するため、思い煩い、飛ぶ燕のように天駆ける天馬を西極より手に入れた時の、武帝の喜びようがひたひたと心にしみる。何時の世にもそんな、大きく生きるために必要な『天馬』がお

る。経済学を専攻した私の友人は曰く、

「これからのその天馬は『雅道』である。実業家でも政治家でもその『雅道』を心に持っていない者は必ず滅びる。」

と。自然科学屋である私にはその『雅道』なるものを理解する雅量はない。少し悶え色々の書を漁つたが、昔買った『中原佑介著・現代彫刻』によりヒントを与えられたように思う。それに、

「実用的目的をもたない『もの』を創る心。」と書いてある。低い私の雅量で、そういえば、パンだけで、そのパンから派生したお金と地位だけで生きる人間はつまらない、と思つたこともあつた。

これから生きるのに必要な『天馬』と『雅道』が同じものか否かは分らないが、農大の歴史が浄化した『詩』にその『天馬』らしいものがあることに気がついたのはつい最近である。この非実用的な『詩』がスランプにつき当つた時に大きな力になる。これを噛みしめつつ死ぬまで生きたいと私は思っている。

どなたの言葉か忘れたが、『人間燃える者だけが生き残る』と云つた人がいる。しかし、その『燃える』の燃料を何にするかが問題である。農大の学生諸君は、知らないうちに学園の『詩』がその燃料になるでしょう。それは価値あるものです。手を高く掲げてこの世を謳歌し欲しい。前進あられよ。



## 同窓会だより

### 畜産学科同窓会よりごあいさつ

畜産学科同窓会総務 近江弘明

我が畜産学科は昭和二十四年に千葉県は茂原の地に誕生しました。

昭和三十六年世田谷キャンパスに移転し、現在に至っておりますが、この間約四千有余名の卒業生が学舎を巣立ち日本国内外において活躍されております。このように歴史ある畜産学科は昭和六十三年の秋、「卒業生が総力を挙げ大学の発展と同窓各位の連帯と社会活動の充実に目指す」を目的として、畜産学科同窓会が設立されその内容は初代会長になられた伊藤澄磨先生の筆により紹介されたことは衆知の通りです。(ふじみのNo.28)

平成元年十月末日、伝統ある収穫祭(前夜祭)の当日、畜産学科同窓会より畜産学科へ和太鼓が寄贈されました。紅白の幕を配したテント内に静座した太鼓は、鳴面が直径二尺一寸とその姿は雄大であり、その音は打てば苦を除し、福を招来すると言われております。

紅白の布に飾られた桴一对が伊藤会長から渡邊学科長の手に渡り、学科長と松岡主事によって「ドンドンカッ

カ、ドンドンカッカ……」と初打ちが行われた後、その桴がさらに畜友会の神永憲一君に譲渡されました。納びとして、畜友会役員が実験動物の永眠と第九十七回収穫祭の成功を願うその連打が行われました。平成元年度卒業生の諸君、この音をすべての活力源とし己を磨きまた、在学生諸君にあっては勉強そして研究に励んでいただければ幸いです。

## 集う学友

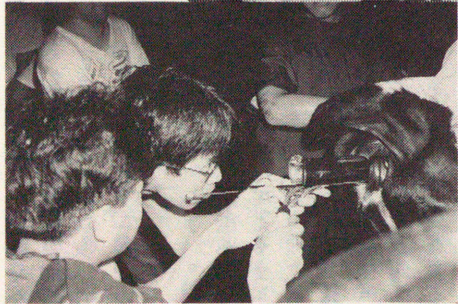
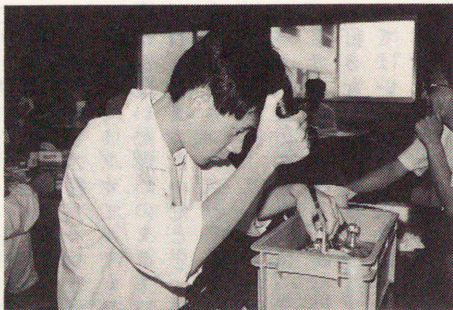
### 家畜人工授精師講習会を終えて 私が思ったこと

畜産経営学研究室四年 神谷悦寛

とにかく大変だった。ひとまず、経営研である私にとっては、やることやることすべてが新鮮だったと言えは聞こえはいいが、そんなの実習や実験の時だけであつて、試験ではそんな悠長なことはとてもいってられなかった。

よく、「人工授精なんか楽勝、楽勝！」という話を耳にするが、三年生他下級生はこの言葉をうのみにしてはだめだ。「畜産学科に入ったのだから、人工授精師の免許くらい持っていないとなあ。でも、楽だっというから(講習会)受けてみるか。」なんて甘い気持ちで申し込むと必ず後悔する。正直言って私がそうであったから。だから、はっきりとした意志を持って申し込むべきだ。しかも、人工授精は牛については、牛肉の自由化であると数年後には受精卵移植に取ってかわられてしまうというのが現実である。そうなれば、牛の人工授精師はお払い箱、その免許はなにも意味を持たなくなる。このよう

現実を君達三年生他下級生はどうとらえるであろうか。しかし、今、こうやってペンを取りながら振り返ってみると、人工授精師の免許云々ではなく、四年間でいちばん充実した時を過ごしたような気がする。畜産学科に入った以上、参加しておいて不足はない。(ただ、人数に制限があるが……。)





## 私の「スパゲティ外論」

四年 ランディ 吉川

私は、スパゲティが大好きである。ちなみに概論という字は書けません。

味にはあまりこだわらず、ただスパゲティであるというだけで満足である。だから、アミに行つて味については、とやかく言つた事がない。

いかにスパゲティが好きかというところ、朝、コンビニで平気でナポリタンを買い事ができる。また夜食に平気でミートソースを食べることが出来る。もちろん、昼、夜もスパゲティを食べることもできる。つまり一日中、スパゲティを食べていられるのである。

そこで、この、只の変態スパゲティ男が、いつも家で勝手に作つて勝手に食べている、特製という程のもので無いが、ランディ風スパゲティの作り方を説明したい。

### ○材料

麺はデュラムセモリナ百%だとか太さだとかは、全然こだわらず、三つ二百九十八円などというようなもので良い。但し、ソフト麺やインスタントはだめ。

具は、キノコ類……シイタケ、シメジ、エノキ、マツ

タケ、etc……洋風の料理に合うもの、肉はベーコンが良いネ。あと玉ネギ、ピーマン等の野菜を好き勝手に入れる。

調味料は、塩、コショウ、コンソメ（顆粒）、ワイン、おろし生ニンニク、バター、油。

### ○方法

麺は表示された時間より一分短くゆでる。ゆであがつた麺はザルで水を良く切り、バターをのつけてよくまぶす。（オリーブオイルでも良い）

油をひいた深めのフライパンに具をドツと入れる。見た目、炒まったかなと思つたら、おもむろにおろし生ニンニク（ニンニクのみじん切りでも可）をドバツと入れる。良くまぶしてからワインをダラダラと少し少々煮る。アルコール分が飛んだ後、先程の麺をドバツと入れてワサワサとかきまぜる。その時、塩、コショウ、コンソメを好きなだけ入れる。小サジだとか大サジだとかは気にしてはいけない。気の迷いが味に出ます。

出来上つたものを皿に入れ、あとは缶ビールを開ければ良い。

具は、この他に、ツナ、メンタイ、イカ、タコ、さらには、朝食の残りの塩ジャケ等を用いても良い、ケチャップ味が好きな人は、ニンニクとワインとコンソメをあまり入れずにケチャップドバドバで作るとまったりとしていて良い。又、おろし生ニンニクのかわりに、おろし生ショウガが使用したいという人は、ショウ油味にし

て、カツオでも入れてみて下さい。

### ○ポイント

食べる時、タバスコや、チーズ等はかけない。おろし生ニンニクのえげつない風味を楽しむのがベター。

あくまで一人で一人の為にのみ作り、作つたということを実感する為にビールを飲みましょう。ビールが飲めない人は……知つたこっちゃありません。

ウダウダ考えずにアバウトに大胆にかつ楽しく作りましょう。

上記の作り方に文句がある人は、勝手に言つて下さい。私流ですので他の人の好みなんて考えていません。

ちなみに麺のかわりに、冷ごはんをプチ込んでもGood!です。ではお大事に!

ランディ 吉川

生年月日・昭和40年12月7日

原産地・イタリア（東京だヨ）

血液型・A型らしい

好きな物・ヘビメタ

好きな事・うふっ

愛 車・ヤマハSRX-250（ポロポロ）

好きな言葉・テイクイットイージー!

## OVERSEAS

家畜繁殖学研究室三年 外 丸 祐 介

小さな覗き窓から外界を眺めてみると、白いちぎれ雲が見える。その遥か下の方には深い緑色をしたジャングルが、そしてその間をコーヒイ色をした川が、まるで蛇が這いずるかの様に幾筋も流れているのが見える。「これがカリマンタン島か。」と一人言を言いながら、はや心は OVERSEAS ……。

目的地のインドネシアといえば、赤道付近に位置する多くの島々からなる熱帯の国。テレビのニュースに取り上げられることも少なく、国内の様子も分からない。共通の言語は国際語である英語である。（注・インドネシア人も一部の人々は英語を話せる。）不安がない訳ではないが、自分の持っている英語力を試し、インドネシアという国を知るいい機会なのだ。そう一人意気込む自分に乗せた飛行機は、首都ジャカルタのスカルノ・ハタ国際空港に到着した。

いざ涼しい機内から出る前に、「インドネシアは暑い!」と気合いを入れて歩き出した。ところが暑いには暑いが、出発した日本も夏であつたので、苦になるほどではなかった。気合いは空振りに終わり、なんとなく出端をく



じかれたような気がした。空港の出口には Dr. SETIOKO が迎えに来てくれていた。早速とばかりに頭の中で用意しておいた「HOW DO YOU DO?」と決まり文句を吐き、SHAKE HAND。これだけで単純な自分は、国際人の仲間入りができたような気になってしまった。

我々一行は、それから約十日間国内を見聞して回った。綿密な日程をこなしたおかげで、一般観光客以上にインドネシアという国を知ることができた。一方、英語会話は一般観光客レベルで終わってしまったかもしれないが、それ以上になれるという自信を得ることができた。そのためにはどうしたらよいか。それに対して Dr. SETIOKO はこう答えてくれた。

「君が英語を上手くしゃべれないのは英語の教育法にも問題があるが、要は君次第である。まずはボキャブラリーを増やす。一日に、例えば三つづつ単語をマスターすること。一時にたくさん単語は覚えられないが、これなら実行できるであろう。英語圏の国へ行くのも有効な手段だ。ただし一人で行くこと。最後に日本人が最も苦手とする発音だが、これは日本語と英語の舌の使い方が違うためである。これは訓練だけだ。こうすれば ENGLISH SPEAKER になれるはずだ。「YOU CAN」

この時の真剣な顔は今でもはっきり覚えていいる。しかしそれを実行していない自分が実に情なく思える。とにかく突に有意義な渡航で、また貴重な体験であっ

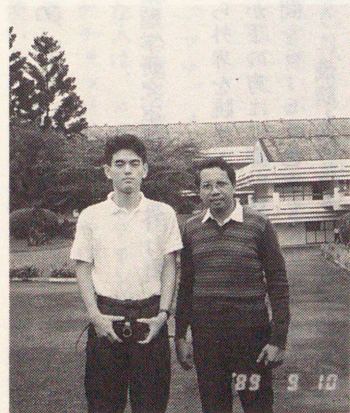
## 「フラメンコ」ってナニ？

家畜繁殖学研究室三年 あさい さつき

フラメンコ—スペインのアンダルシア地方に伝わる民族舞踊。カスターネットに合わせて大きな動きで踊るのが特徴。と、とある国語辞典にはこう書いてあります。でもこれではズバリ正解！とはいいかねます。フラメンコとはスペインのものということは、どなたも御存知のことと思いますが、スペインではフラメンコといえば、カンテ—歌のことを指すのです。日本でだって民謡といえは歌のことであり、盆踊りのことを思いうかべる人がいないのと同じです。それから踊りに使う小道具は、カスターネットだけと思ったら大間違い。もちろん代表的なものはそのほか、他にも扇、シヨール、帽子などなど数えあげたらキリがありません。指先だって立派な、「小道具」となるのです。

フラメンコでの格付けは、一番にカンテ、二番にバイレ（踊り）そして三番目にギターラ（ギター）の順です。これは、完成された順番であり、最初は、みんなで手拍子（バルマといえます）を打ちながら歌をうたいます。そのうちそれにあわせて、踊る人が出てきます。そして最後にそれらの伴奏としてギターが出てきたそうです。

たと言いたい。これについて、この渡航を計画し、誘って下さった先生、同行してくださった方々に感謝の意を述べたい。



あの激しい踊りや情熱的にかき鳴らされるギターも素晴らしいものですが、ひび割れた声（フラメンコでは美声とされています）でうたわれるカンテをしみじみと聞くのもオツなものです。

と、エラそうにフラメンコ論をぶってみても、かつて「盆踊りのさっちゃん」と呼ばれ、恥ずかしながらバレーを少々たしなんだことのある私といたしましては、やっぱり「バイレ」しかないのです。眉間にシワを寄せてサマになる踊りなんてそうそう見当りません。しかし、踊りを始めてまだ一年半。若輩者の私にそのような曲は踊らせてもらえるワケもなく、もっぱらスペインのお祭りの踊りをやっているのです。でもいつかは、いつのことになるかは、皆目わかりませんが、眉間にシワを寄せ、コーラというスカートが長く後ろに引く衣装を着て、ソロを踊ってみたいもんだ、と思います。



## 一年を終えて

一年 村山道彦

東京農業大学に入学して、既に一年間が過ぎようとしている。農友会に入っているためか、入学してからの思い出といえば、普段の生活から収穫祭にいたるまで、そのほとんどが部活動であった。そんな僕には学科のことなど無縁な一年間だった。しかし、そんな中で、夏に厚木で行なわれた実習は、唯一の、そして、とても素晴らしい思い出となった。

さて、僕は浪人時代を経験していて、予備校で、農学部系のクラスにいたため、いろいろな大学の農学部に友人が何人かいて、それらの友人と実習のことについて、話をすると様々な情報が入ってきてとても面白い。色々なちがいがわかるからである。中でも僕が興味を覚えたのが、鎌である。初日に各自、鎌を配られ、一週間の間毎朝草刈りをして研ぐことも含めて、管理してゆくということは、みなさんご存知であると思うが、そんな話は他大学の友人たちからは聞かなかつた。電動の草刈り機で草刈りをするか、鎌の扱い方を習うといった程度のものであった。我大学のような事を行っている大学はどうやらないらしい。その事を、他大学の友人達に話すと、「い

まどき、そんなふるい事をしている農家はないぞ。農大はまだそんなことをしているのか。」とケラケラと笑われた。

しかし、それは恥かしいことではなく、とても大切なことだと解釈している。畜産を志す一人になってから、まだほんの一年でしかない。実習といっても、あの一週間でやってきた作業といえば、畜舎の清掃や雑用でしかない。言ってしまうには誰にでもできる作業ばかりである。当然である。入学してから半年しか経っていない青二才に何ができようか。実習中は、デッキブラシで豚舎を洗いながら、「なんでこんなことをやらなきゃならないんだ。」とか、一輪車で糞を運びながら、「めんどうな事はかり押しつけやがって。」などと、実習の内容に不満を抱いていたが、あたりまえだ。僕らにはそんなことぐらいしかできない。逆にいえばそこから始めないとダメなのであろう。畜産の長い歴史に失礼である。

その長い歴史を一人の人間が受け継ごうとしている。いきなり電動の草刈り機で草を刈れば、その歴史は憤慨して嘆くであろう。昔の人の苦労が水の泡である。

厚木での一年生の実習が今年で最後ということであった。富士畜産農場に全て移るからだそうである。そういうこともあって、実習でも、杭を抜いたり、作業機を運んだりと、何やらあわただしさがうかがえた。たくさんの諸先輩の方々が先生といっしょになって自分たちで築き上げたというその場所には、一ヶ所、一ヶ所に僕らの

知らない思いが込められているんだなと、先生の時折り見せる悲しげな表情からうかがえた。しかし、その最後の実習に巡り合ったことを非常に幸運だったと感じた。

これからあとの残り三年間、この農大で畜産学を勉強してゆくのだが、あの厚木での実習は、技術面ではなく精神面において、大切なものとなり、歳月が経つに連れそれは大きく膨らんでゆくと思う。

最後に、この「ふじみの」に参加させていただく機会を与えて下さった、畜友会の諸先輩に感謝の意を表わしたいと思います。







|            |       |                                       |       |
|------------|-------|---------------------------------------|-------|
| チ86<br>104 | 中島 豊  | 乳酸菌の代謝産物給与がマウス脾臓細胞の活性に及ぼす影響           | 古川 山中 |
| チ86<br>114 | 沼田 恭  | B-16黒色腫の転移に及ぼす乳酸菌々体給与の影響              | 古川 山中 |
| チ86<br>118 | 芳賀 佳彦 | 大ヨークシャー種の性別及び筋肉部位による脂質並びに脂肪酸組成の差異     | 松岡    |
| チ86<br>122 | 畑山 騰  | 農業高等学校における畜産教育の現状と将来展望                | 山中 岸田 |
| チ86<br>123 | 原田 章彦 | 肥育末期のサイレージ給与が去勢ホルスタイン肥育牛の理化学的性状に及ぼす影響 | 松岡 佐藤 |
| チ86<br>131 | 舟窪 貞夫 | 卵黄膜が細胞に及ぼす影響                          | 山中    |
| チ86<br>132 | 細谷 悟  | パークシャー種筋肉脂質及び脂肪酸組成における性別並びに筋肉間差       | 松岡    |

|            |       |                              |       |
|------------|-------|------------------------------|-------|
| チ86<br>137 | 松田 友子 | 凝乳活性の高い乳酸菌の分離と検索             | 高橋    |
| チ86<br>141 | 水嶋 友昭 | 脱脂卵黄が細胞に及ぼす影響                | 山中    |
| チ86<br>143 | 三村 英樹 | 凝乳酵素に対する山羊乳の挙動               | 古川 高橋 |
| チ86<br>153 | 山本 恒明 | 卵黄グラニュールおよびブラズマ中の細胞活性物質の検索   | 山中    |
| チ86<br>154 | 山元 浩昭 | 乳酸菌代謝産物の給与がB-16黒色腫の肺転移に及ぼす影響 | 古川 山中 |
| チ86<br>157 | 横瀬 達洋 | カード形成に及ぼす原料乳の影響              | 古川 高橋 |
| チ86<br>160 | 吉川 雅一 | 抗腫瘍性多糖生産菌の分離                 | 古川    |
| チ86<br>164 | 鷲澤眞由美 | 乳酸菌培養液中のピフィダス菌活性因子の検索        | 古川    |
| チ86<br>165 | 渡辺 明洋 | 乳酸菌における多糖生産性の接合伝達について        | 古川 高橋 |

|            |       |                          |       |
|------------|-------|--------------------------|-------|
| チ86<br>165 | 渡辺 梯児 | 粘質物生産乳酸菌の分離と培養条件の検討      | 古川 高橋 |
| チ88<br>603 | 辻 浩之  | 乳酸菌の固定化に関する研究            | 高橋    |
| チ85<br>156 | 門田 祥和 | オーストラリアの農業と畜産(現状と直面する問題) | 山中 新井 |

家畜育種学研究室

家畜育種学研究室では、家畜改良の基礎となる遺伝学、育種学、特に血清学、細胞遺伝学、分子生物学的見地から広範囲にわたり研究活動が実施されています。当研究室では、柴田寛三教授をはじめ、田中一栄教授、天野卓助教授の指導の下に古郡実験助手、大学院6名、4年生22名、3年生17名で構成され、室員各自の自覚と互いの協力により、それぞれの目標に向かって頑張っています。

研究室における日常の活動は、実験動物の飼養管理による家畜との接触や、毎週行なわれている定例委員会、他に、卒業等の研究、実験における問題点を解決する為に、昼夜を問わず熱心に討論されています。さらに研究活動は学内だけに止まらず、先生方は学会や研究の為、

海外に出張されたり、また学生も他大学及び他研究機関に出向いて研究を行っています。

研究室における年間の主な行事としては、新入室員歓迎会、定期総会、収穫祭への参加、研修旅行、卒業論文発表会などがあります。

因みに平成元年度の卒業論文題目は次の通りです。

| 学籍番号       | 氏名    | 論文題目                            | 指導教員  |
|------------|-------|---------------------------------|-------|
| チ86<br>003 | 安孫子征樹 | チャイニーズハムスターとゴールデンハムスターの細胞遺伝学的研究 | 柴田 田中 |
| チ86<br>008 | 石丸 克彦 | 桃園種の染色体における微細構造について             | 柴田 田中 |
| チ86<br>009 | 和泉 孝  | ウシ血清蛋白型の遺伝的変異に関する研究             | 天野    |
| チ86<br>019 | 遠藤 健夫 | 岐阜地鳥に関する史的考察                    | 田中    |
| チ86<br>025 | 大森慎太郎 | ブタ染色体の各種分染核型分析                  | 田中 柴田 |



|                          |                  |                                 |                               |            |                    |                          |                            |                       |                        |                                       |                               |  |                         |                       |
|--------------------------|------------------|---------------------------------|-------------------------------|------------|--------------------|--------------------------|----------------------------|-----------------------|------------------------|---------------------------------------|-------------------------------|--|-------------------------|-----------------------|
| チ85<br>125               | チ85<br>039       | チ88<br>601                      | チ87<br>501                    | チ86<br>162 | チ86<br>151         | チ86<br>148               | チ86<br>145                 | チ86<br>072            | チ86<br>071             | チ86<br>057                            | チ86<br>041                    | チ86<br>037   | チ86<br>031              | チ86<br>026            |
| 濱田 直樹                    | 小鷹 和久            | 遠藤 充史                           | 小堀 一弥                         | 李 忠憲       | 山本 敬一              | 森 期子                     | 宮腰 雄一                      | 菅谷 京子                 | 持齋 清美                  | 近藤 利樹                                 | 神田 雄岳                         | 加藤 周吾  | 奥野 和則                   | 岡崎 賢成                 |
| 馬血液型Aシステムのモノクローナル抗体による解析 | 経産豚血清中の白血球抗体について | 韓牛の血液型と血液蛋白型に関する研究—特に東北部集団について— | パークシャー種におけるE/D NAの制限酵素切断型について | 韓国在来馬の史的考察 | ネパール在来豚の赤血球酵素型について | 血液蛋白型からみたウシ集団の類縁関係に関する研究 | ウシの血液型に関する研究—特にFVシステムについて— | ウシ血球蛋白・酵素の遺伝的多型に関する研究 | 琉球諸島における日本在来馬の形態に関する研究 | モノクローナル抗体によるウシの血液型に関する研究—特にAシステムについて— | ランドレース種におけるE/D NAの制限酵素切断型について | Lemur属の種間雑種、Lemur fulvus × Lemurmacaco, F <sub>1</sub> 雄固体の妊性とテストステロンレベルについて | スイギュウの血液蛋白型の遺伝的変異に関する研究 | 韓国在来山羊の実験動物化に関する基礎的研究 |
| 天野                       | 田中               | 天野                              | 田中                            | 田中         | 田中                 | 天野                       | 天野                         | 天野                    | 田中                     | 天野                                    | 田中                            | 平井 田中  | 天野                      | 天野 柴田                 |

|                        |                                  |  |                                       |                         |                     |                              |  |                                  |  |  |                                       |                                       |                         |                         |
|------------------------|----------------------------------|--|---------------------------------------|-------------------------|---------------------|------------------------------|--|----------------------------------|--|--|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| チ86<br>028             | チ86<br>116                       | チ86<br>112                             | チ86<br>094                            | チ86<br>081              | チ86<br>134          | チ86<br>126                   | チ86<br>119                             | チ86<br>116                       | チ86<br>112                             | チ86<br>112                             | チ86<br>112                            | チ86<br>112                            | チ86<br>112              | チ86<br>112              |
| 岡村 永子                  | 野口 正樹                            | 西木 美奈                                  | 土屋 文明                                 | 高田 美十                   | 増田 ゆき               | 坂野 庸子                        | 橋本 保彦                                  | 野口 正樹                            | 野口 正樹                                  | 西木 美奈                                  | 土屋 文明                                 | 土屋 文明                                 | 高田 美十                   | 高田 美十                   |
| 飼料、排泄物、および実験試料の乾燥方法の検討 | ポリアクリルアミドゲル電気泳動法による豚血液蛋白型の検出について | 馬血液型判定用モノクローナル抗体の作製に関する研究—特にPシステムについて— | モノクローナル抗体によるウシの血液型に関する研究—特にZシステムについて— | マウスの体外受精および胚培養に関する基礎的研究 | 南アジア系在来豚の血液蛋白多型について | デュロック種におけるE/D NAの制限酵素切断型について | 馬血液型判定用モノクローナル抗体の作製に関する研究—特にAシステムについて— | ポリアクリルアミドゲル電気泳動法による豚血液蛋白型の検出について | 馬血液型判定用モノクローナル抗体の作製に関する研究—特にPシステムについて— | 馬血液型判定用モノクローナル抗体の作製に関する研究—特にPシステムについて— | モノクローナル抗体によるウシの血液型に関する研究—特にZシステムについて— | モノクローナル抗体によるウシの血液型に関する研究—特にZシステムについて— | マウスの体外受精および胚培養に関する基礎的研究 | マウスの体外受精および胚培養に関する基礎的研究 |
| 栗原 伊藤                  | 田中                               | 天野                                     | 天野                                    | 天野 柴田                   | 田中                  | 田中                           | 天野                                     | 田中                               | 田中                                     | 天野                                     | 天野                                    | 天野                                    | 天野 柴田                   | 天野 柴田                   |

家畜飼養学研究室

家畜生産に当り飼養学の占める役割は大きい。生産物の品質、価格、経営等はすべて摂取栄養物即ち飼料により可否が決定される。基礎教育とし飼料分析技術の完全把握を目的としそれら技法修得後、各家畜の栄養生理面に研究は展開されて居る。同時に家畜を取りまく環境、及び環境制御等家畜の管理面よりの研究活動が行われている。

特別活動として一般成分分析実習、群馬県畜産試験場、浅間育成牧場等に於いて、一般家畜及び放牧管理、草地肥培管理実習等が夏・秋期に行なわれている。

室員構成は室長杉村教授・亀岡教授、伊藤助教、栗原講師の4名の教職員と大学院博士課程後期1名、4年次生14名、3年次生13名、計27名である。

課外活動として、収穫祭、スポーツ大会への積極参加、研修旅行、餅つき大会等、切磋琢磨の365日である。

学籍番号 氏名 論文題目 指導教員

チ86 028 岡村 永子 飼料、排泄物、および実験試料の乾燥方法の検討 栗原 伊藤







チ86 084 田口 英明 白色レグホーン種の羽毛及び脚鱗のS-カルボキシメチル化ケラチンに関する血清学的研究

チ86 097 鶴田 昇 免疫電子顕微鏡による動物組織の観察

チ86 099 富澤 寛 鶏の胸腺及びファブリキウス囊の細胞に対する特異抗血清の作製と細胞膜抗原の検討

チ86 125 馬場 泰美 ウズラにおけるアナフィラキシー誘導に関する研究

チ86 127 彦坂 康予 2-3の家畜赤血球における酸化防御機構、特に酸化剤に対する抵抗性について

チ88 602 川崎 保浩 馬赤血球膜の $\alpha$ - $\text{D}_2\text{E}$ 透過性に対する培地中アミノ酸の影響

チ85 013 石川 雄 馬赤血球膜の $\alpha$ - $\text{D}_2\text{E}$ 透過性に対するSH基酸化剤処理の影響

チ84 167 吉見 直 緬羊の成長に伴う血清蛋白、特に免疫グロブリン濃度の変化

家畜衛生学研究室

本研究室は、東量三教授、近江弘明助教授、渡邊忠男講師、各先生の御指導のもと、4年生26名、3年生24名、2年生1名、1年生1名の室員が一体となって活発なる研究室活動を行なっている。

研究室活動としては、室員各自希望する家畜、家畜別に分け、牛班、豚班、鶏班、実験動物班の4班に分かれ各家畜、家禽の疾病に対する予防法及び糞尿処理、環境衛生などの研究を行なっている。

また本学家畜診療所においても一般外来動物の診療を中心に各種の研究活動が行なわれている。

その他研究室の活動内容は、年間行事を通して新入室員歓迎会、ソフトボール大会、収穫祭参加（文化芸術展、模擬店）、研修旅行、送別会、ゼミナールなどがある。

このような、多面活動において学生生活の充実を図り室員各自の個性を引き出し、その個性をもちより研究室独自の個性を創造するという事に我々は目標をおいている。

番号 氏名 論文題目 指導

チ86 007 伊澤 眞 わが国における家兎の飼料状況について

チ86 015 岩崎 明美 モルモットの皮膚における化粧品類の刺激試験

チ86 018 浦川 淳 犬の管理衛生に関する研究・排泄糞による路上の汚染状況

チ86 054 小林由起子 豚の発育に伴う歯牙の組織学的観察

チ86 055 近藤 満之 内部寄生虫の同定に関する研究・虫卵の培養法について

チ86 060 境澤 由記 愛玩動物における配合飼料給餌後の糞尿の変化について

チ86 063 佐々木和広 各種培養細胞におけるウイルスの増殖性について

チ86 066 塩島 光仁 ホロホロ鳥の血液性状について・成鳥の季節的変動

チ86 067 鎮野 謙一 育成期ホロホロ鳥の放飼下における行動と疾病予察

チ86 073 杉山智太郎 糖並びに脂質食品の長期投与が犬の血清成分に及ぼす影響

チ86 085 武谷 志津 獣医臨床の漢方療法に関する研究・犬の利尿剤について

チ86 087 田中 茂穂 愛玩鶏の内部寄生虫規制状況について

チ86 090 樽川 修 八王子市近郊飼養乳牛における内部寄生虫の虫卵保有状況

チ86 095 堤 信一 千葉県匝瑳郡近郊飼養肉牛における内部寄生虫の虫卵保有状況

チ86 096 中野千鶴子 B. Cabana のプラスミドの研究・特にプラスミドプロファイルについて



|            |       |                                      |          |
|------------|-------|--------------------------------------|----------|
| チ86<br>029 | 小川 向希 | 馬肉の生産と流通—青森県における実態—                  | 石岡       |
| チ86<br>024 | 大友 昇  | 銘柄牛の動向とその問題点                         | 新井       |
| チ86<br>022 | 大島 雷王 | 乳価の季節性と酪農家の対応                        | 新井       |
| チ86<br>013 | 井ノ原 卓 | 熱帯雨林破壊の現状とその影響                       | 新井       |
| チ86<br>011 | 伊藤 和志 | 乳用牛群能力検定成績からみたわが国酪農の生産水準             | 新井       |
| チ86<br>006 | 安藤 尚美 | 国産牛肉消費に関する消費者の意識調査                   | 新井       |
| チ86<br>001 | 会田 祐司 | 鶏舎構造の相異による経営分析                       | 新井       |
| チ86<br>147 | 望月恵理子 | 犬糸状虫(ミクロフィラリア)に対する駆除法の検討             | 近江       |
| チ86<br>144 | 宮内 伸夫 | 消毒剤による豚房床面の細菌の消長                     | 東        |
| チ86<br>140 | 水品 繁和 | 豚の発育に伴う歯牙の形態的観察                      | 近江<br>鈴木 |
| チ86<br>138 | 松田 浩  | 犬の歯石並びに歯槽骨付近分泌物に由来する細菌・特にグラム陽性桿菌について | 東        |
| チ86<br>130 | 藤本 貫大 | 馬の管理衛生に関する研究・遠赤外線馬着の防暑効果について         | 近江       |
| チ86<br>129 | 藤原 育子 | 罹患犬の血球(白血球)に対する染色法の検討                | 近江       |
| チ86<br>128 | 福岡 幹生 | グラム陽性桿菌のDNAについて                      | 東<br>渡邊  |
| チ86<br>121 | 畑 肇   | B. Cereus のプラスミドの研究・特にその性状との関係       | 東<br>渡邊  |

湯

|            |       |                                     |         |
|------------|-------|-------------------------------------|---------|
| チ86<br>159 | 吉川 聡雄 | 'Tonsillophilus suis' の形態及び選択培地について | 東<br>渡邊 |
| チ87<br>502 | 田川まり子 | 犬の歯周炎に関する研究・歯垢の付着と給餌法の関連性について       | 東<br>近江 |

畜産経営学研究室

みなさんこんにちは、畜産経営学研究室です。我が研究室は、畜産学科唯一の社会科学分野の研究を新井肇助教授、石岡宏司講師の指導のもと四年30名、三年29名が多くの初々しい畜産技術の進歩に経済の光を当てながらの経営をリードすべく日夜、研究を行なっています。原則として全員室員制をとって三年生には、毎日当番があります。

四年生の演習は、卒論指導を中心に三年生は、これらの経営分析に欠かせない、パソコンや簿記学の演習が中心です。夏休みに15日間の農家実習があります。決して楽ではありませんが畜産への関心が一層深まると、ともに一生忘れることのない体験となります。

これからの研究に必要な図書、統計資料、パソコン・ソフトも完備しつつあります。そして年二回の演習旅行

では現場の"声"を聞きこれからの学習に役立てています。

|            |       |                            |    |
|------------|-------|----------------------------|----|
| チ86<br>039 | 神谷 悦寛 | 愛知県における肉用牛生産と流通            | 新井 |
| チ86<br>074 | 杉山 康弘 | 乳牛舎に関する実態調査、創意工夫点を中心に      | 新井 |
| チ86<br>086 | 田代 修一 | 酪農ヘルパー制度に関する調査—群馬県榛名町を中心に— | 新井 |
| チ86<br>088 | 田辺 淳一 | 採卵養鶏の経営分析及び改善計画            | 新井 |
| チ86<br>092 | 月村 宏一 | 牛肉ブランド化とその問題点              | 新井 |
| チ86<br>103 | 中嶋 裕  | 統計資料からみた酪農経営分析             | 石岡 |
| チ86<br>106 | 中西 陽一 | 首都圏における豚枝肉価格の統計分析          | 石岡 |
| チ86<br>109 | 永田 憲明 | 松阪牛肥育農家の経営分析               | 石岡 |
| チ86<br>110 | 成田 千秋 | 東南アジアの農業と水牛—タイ王国の沼沢水牛—     | 新井 |



西野 武司 肉牛生産費からみたわが国肉牛経営の問題点 石岡

馬場 憲治 牛乳生産費調査からみた北海道及び都府県酪農の差異 石岡

松繁 陽子 輸入牛肉消費に関する消費者の意識調査 新井

柳沢 光治 酪農ヘルパー制度の実態と問題点 新井

山本 孝徳 豚枝肉価格の統計的分析 石岡

八本 治 豚繁殖成績の統計分析 石岡

川口 聡子 ブラジルにおける馬肉の生産構造 石岡

小山 哲也 宮崎県児湯郡における豚一貫経営分析 石岡

白田 英樹 乳価の季節性に関する研究―徳島県下の事例を中心に― 新井

新野 晋三 長崎県における肉牛経営の現状と問題点 新井

田中 孝次 岐阜県における養豚経営の現状と問題点 新井

鈴木 公哉 畜産物価の季節変動について 石岡

### 家畜繁殖学研究室

我が家畜繁殖学研究室は、主任の一戸教授をはじめ門司講師、桑山副手の指導の下、大学院生2名、四年生23名、(うち1名は海外実習のため休学中)、三年生24名の室員から構成されています。室員は各自の希望により次の班に別れています。

即ち、一戸教授、桑山副手の指導による家禽及び小動物班、門司講師の指導による大中家畜班よりなり、内分泌に関する基礎的研究から人工授精、更には発生工学に関する広い分野にわたり研究を行なっています。

各班では、週一回のゼミナールを開き、文献を読んだの討論や卒業実験の説明など、お互いに知識を交換し研究をより一層中身のあるものにするよう努力をしています。又、当研究室は家畜人工授精師の講習を受けるにあ

たっても、普段から家畜の繁殖に関する研究にたずさわっている関係上、日常の飼育管理の中からも学びとれるものがあると思われています。

研究の主要テーマとして「家禽、家畜及び実験動物の生殖リズムに対するホルモン及び環境要因の影響」「家畜の精子・卵子の形態と凍結保存」「体外受精及び家畜の受精卵移植に関する研究」と様々であります。

その他我が研究室の年間行事として、新入室員歓迎会をはじめ、富士農場における畜産実習、卒業論文発表会、卒業生送別会などがあり、特に収穫祭においては、一層の団結力を見せ毎年その成果が発揮されています。

学籍番号 氏名 論文題目 指導教員

チ86 004 安澤 典宏 性成熟期における雄日本ウズラの精巣に及ぼす外因性ステロイドホルモン投与の影響 一戸

チ86 017 宇山 浩彦 本邦における赤色野鶏(Gallus gallus)及びセイロン野鶏(Gallus lafayettoi)の増殖とその問題点について 一戸

チ86 023 大谷 道生 ウズラの糞による血中テストステロン濃度の推定法 一戸

チ86 030 小川美代子 マウス二細胞期胚割球の発生能と細胞動態の検討 河野

チ86 033 小野 裕也 ウサギ精子の凍結保存に関する研究―特に希釈液の相違による精子生存性と受胎率について― 門司

チ86 038 神永 憲一 山羊の射出及び凍結融解精子のハムスター卵子への侵入について 門司

チ86 040 川添 幸子 14L:10D照明条件下における岐阜地鶏の年間産卵状況および就巢・換羽状況について 一戸

チ86 044 菊留 茂訓 ビデオ装置を利用した家畜精子の運動能解析法の検討 門司

チ86 046 木村佐知子 マウス卵子における単為発生誘起法の検討とその発生能 河野

チ86 049 楠田 淳 ウサギの体外受精に関する研究 門司



|            |       |  |       |
|------------|-------|--|-------|
| ヲ86<br>077 | 鈴木 友子 | 豚体外成熟卵子の体外受精とその後の発生状況について  | 門司 一戸 |
| ヲ86<br>078 | 関 邦恵  | 雄日本ウズラにおける性成熟期クローカ腺内のTestosterone及5 $\alpha$ -dihydrotestosterone濃度の変化 | 一戸    |
| ヲ86<br>089 | 田村 典久 | 生の体外受精に関する研究<br>—体外受精卵の発育に及ぼす精子処理方法の検討—                                | 門司 一戸 |
| ヲ86<br>102 | 内藤 知子 | 豚精液の凍結保存に関する研究   | 門司 一戸 |
| ヲ86<br>108 | 永田 憲正 | 牛の体外受精に関する研究<br>—特に卵丘細胞の付着状況が卵胞卵子の成熟率におよぼす影響—                          | 門司 一戸 |
| ヲ86<br>111 | 難波 欣也 | 就単期の岐阜地鶏に対するPM $\beta$ 投与の影響—特に就単期の萎縮卵巣におけるエストラジオールの生産について—            | 一戸    |

|            |       |  |       |
|------------|-------|--|-------|
| ヲ86<br>150 | 山之内正弘 | 牛の体外受精に関する研究<br>—体外受精卵の発育におよぼす培養系の検討—                | 門司 一戸 |
| ヲ86<br>156 | 湯浅 弘美 | 岐阜地鶏の就単各期における下垂体Prolactin細胞の組織学的検討                   | 一戸    |
| ヲ88<br>606 | 吉川 芳文 | 照明条件の差異が雄ホロホロ鳥の繁殖生理に及ぼす影響<br>—特に血中テストステロン濃度の日内変動について | 小川    |
| ヲ85<br>006 | 足立 真也 | ニュージーランドにおける低コスト酪農の特徴                                | 門司    |
| ヲ85<br>055 | 日下 晋一 | 雄日本ウズラの性成熟に及ぼす外因性メラトニンの影響                            | 一戸    |
| ヲ85<br>110 | 富 正志  | 米国における牛肉生産の現状とその輸入自由化が我国の肉牛生産農家に及ぼす影響について            | 門司    |

収穫祭だより

畜魂燃ゆ

畜産学科統一本部 統一委員長  
三年 中山 浩

「それは、涙で始まった。」これが、第九十七回収穫祭の幕開けだった……。  
今年の畜友会は、三年不在とも言われ、結束力が弱く、人材も不足しており、組織の存続すらが、あやぶまれていた中、急遽招集された、まさににわか作りの統一本部が今年の収穫祭の中心となった。  
そのため、当初は、経験者がいないため、収穫祭に望む姿勢がわからず、困難をきわめた。そのため、「例年通り」という言葉に流され、真の目的を忘れかけていた。そんな中、他学科との交流が増すにつれ、自らの力不足と、収穫祭に対する姿勢の違いを、まじまじと痛感し、そこで始めて、「自分達流」という考えを認識し、本部開きにおいて、それを集まった仲間にも強く訴えるのと同時に、堅く誓い合った。  
それを期にしたかのように、他学科への闘争心と、収

穫祭の成功を願う心が芽生え、そこで始めて、真の目的を見つけ、我々の挑戦が始まった……。  
そのため、今までは見られなかった仲間同志の衝突が見られるようになった。しかしそれは、おのおのが真剣に考えるがゆえの衝突であり、収穫祭の真の成功という強い絆が、我々をつなぎ止めていたのであり、そこには、溢れる闘志と活気すら感じられた。しかし、その反面、毎日身を削る活動をしてきたため、人材も不足していたこともあり、疲れもピークに達し、作業の能率が低下し始めたのも目につき、問題の種も出始めたのも事実であった。しかし、なお、前進していく我々を支えてくれたのは、数多くの先生方や、四年生の先輩方並びに、同輩、後輩であった。  
これにより、我々は、まさに畜産学科全体の団結力を背に受け、期待と責任の重さを自覚しつつ、さらに前進したのであった……。その結果、収穫祭は我々の経験不足がたたり、一部、悔いを残すところもあったが、体育祭に代表されるかのように、収穫祭はみんなが一つの目標に全力で立ち向かい、大きなことをなしたとけた充実感と、言葉にできぬ、心に強く残る「何か」をつかめたことが、収穫祭の何よりの成功であったと私は信じている……。



## 宣伝隊を終えて

三年 中井義成

七月上旬、私は畜友会室へ向け階段を駆け上がった。その理由は、第97回収穫祭の役員を決めるためであった。少々、緊張しながら会室の戸を開けた。既に会議は始まっていた。名簿を見ると役員の名前は決まっていた。そんな中で「宣伝隊」がまだ空欄になっていた。私は即座にその隊長になることを決めた。こうして私は、その時から、第97回収穫祭畜産学科統一本部宣伝隊長となったのである。

翌日、宣伝隊の最初の会議があった。そして、昨年、自粛の為、思うように活動できなかった分までガンバロウと心に決めたのであった。

九月中旬、電話が鳴った。「宣伝隊の会議があるので来るように」という事だった。いよいよ本格的な活動の開始だ。会議では「ふるさと東京パレード」の参加の事や「都内宣伝パレード」「経堂パレード」の事などを話し合い。数日後、共通みこし作りが始まった。共通みこしとは、全学科の共同作業で作る、みこしの事である。しかし私は実習などがあった為この共通みこし作りに余り参加できなかった。

十月、学科みこしの製作に入った。思うようにデザインが決まらず焦っていた。既に完成間近の学科もあった。この学科みこしは、宣伝隊のクライマックスでもある。「経堂パレード」で担ぐ為のものである。ようやくデザインが決まった。そのデザインは「ユニコーン」である。ユニコーンとは、馬の頭部に一本の角が生えているという空想の動物で一角獣ともいう。

みこし作りと同時進行で「ふるさと東京パレード」と「都内宣伝パレード」を行った。雨の中で共通みこしを担いだ「ふるさと東京パレード」や、野菜を配り、ほろきとちり取りを持って走り回った「都内宣伝パレード」など今となっては、なつかしい思い出ばかりである。

話しを学科みこし製作に戻そう。デザインが決まった時には、「経堂パレード」二週間前であった。材料を買い込み、いよいよ作業に取掛かる。しかし何もかも初めての私はとまどった。昨年、実際に作業をしたという後輩達や他の学科の人たちの助けを借り、連日連夜の徹夜で、ようやく完成した。

十月二十一日、土曜日ついに、この日がやって来た。「経堂パレード」の日である。我々、畜産学科はツナギに白長靴、頭にタオルでハチマキという服装で決めた。私は隊長ということで学ランを着てみこしの前を歩いていった。「ユニコーン」は畜産学科の学生という蹄を得て経堂の商店街を縦横無尽に走り回った。それは、恰も険しい崖を駆け上がる荒馬の様であった。

## 前夜祭・特別企画委員長を終えて

三年 三堀太郎

経堂パレードが終わると私の仕事も一段落した。しかしまだこれで終りではない。収穫祭の最後の行事のファイヤーストームも宣伝隊の仕事である。点火された火は、空高く舞い上がり天を焦がした。その火は、この一ヶ月ほとんど毎日、仕事をして疲れきった体と心を浄化してくれた。そして最後にみこしを炎の中に投げ込んだ。燃えさかる炎の中で安らかな眠りについた白い一角獣「ユニコーン」その亡骸に哀悼と感謝の意を込め一言呟いた。「ありがとう。」

最後に、右も左も分からず何も出来なかった私に陰ながら手助けしてくれた先生、先輩の方々、並びに仲間達や後輩達に深く感謝します。



東京農業大学農友会第九十七回収穫祭が終わった。私は、収穫祭の畜友会としての参加は初めてなので終始大変な役についてしまったなと思っていた。一年生の時は、ただ見物に来ていただけで、二年生の時はサークルで模擬店を出したので毎年収穫祭には参加していた事になるだろう。そして今年が一番重大な仕事を務める事になった。研究室の役員として畜友会役員という役に就いた時には、一体何をやるのかと心配していたが研究室で先輩方に聞いたら、「何もやらなくてもいいよ。」と言われたので安心していただけ、収穫祭畜産学科統一本部副委員長兼前夜祭・特別企画委員長という立派な役についてしまった訳です。

初めは何もしなくても誰かが何かやるだろうと思っていたのだが実際十月頃になって他の学科の統一本部が忙しくなり出してから何かやらなければ、動き出さなければと思っただけが毎日のように統一本部開きに他学科から呼ばれて毎日のように酒を飲んでいただけの日々があった。そして本当に仕事を始めたのは十月の半ば頃でした。毎年そうだと聞いていたが、前夜祭・特別企画の委員長





はなかなか決まらず無理矢理誰かが押しつけられてしまい、実際に準備を手伝ってくれる人をつれて来るのが大変だという事で、先輩方に質問しに行っても「特企は大変だぞ。」という答が必ず帰って来ました。私は「はまった！」と思った。しかし段々日数がなくなってきた心はあせるばかりで何もしていない日々があった。

前夜祭・特別企画と一口に言っても前夜祭・美人コンテスト・Mr.農大コンテスト・Miss農大コンテスト・先生など自慢大会・のど自慢大会・野外劇と色々な仕事があり、収穫祭が始まってからも期間中は毎日忙しい日々を送った。準備に当っては二年生のH君が前夜祭・特別企画副委員長という事で全てにおいてバック・アップしてくれて本当に助かりました。彼は一年の時に手伝った事もあって、私より全てにおいて勝っていたと思います。二人でとりあえず前夜祭と野外劇の原案を練ろうと毎夜遅くまでかかって考えても試行錯誤を繰り返している内に矛盾が生じて来て、初めからやり直しをしたり、前夜祭のシナリオがなかなか決まらずに経営研のM君と一緒にB・G・Mの音楽を決めるのに一週間もかかってしまったり、バックボードを作成する時に場所が使えなかったり、ペンをきぬるのが思った以上に時間がかかってしまい苦労した事も今となっては良い思い出です。

そして収穫祭がもう目前という時に、突然二年のH君のお父さんがたおれたという事件が起こり、私の目の前が真っ暗になってしまいました。その時私を支えてくれ

たのはY君、H君を初めとした二年生の後輩の皆で、「三堀さん、Hはもう来させないで自分等だけで準備しましょう。」と言われて今迄、いかにH君に頼ってばかりいたかを反省させられ、「やるぞっ！」という気になってきました。そして各のど自慢大会並びにコンテストに出て下さる方と色々な打ち合わせをしながら収穫祭当日をむかえたのです。

収穫祭は前夜祭から始まり一日目、二日目、三日目、そして体育祭と全て参加して五日間中は三日間徹夜という忙しい日々を過ごし、体育祭において総合第三位とアウンスがかかった時には、ある者は涙ぐみ、ある者はガッツポーズを取り、参加した人達、特に三年生の関係者の人達は、何とも言えぬ充実感を感じた事でしょう。

私は言わば前夜祭・特別企画において数々の失敗を重ね期待通りの結果を出す事が出来ず落ち込んでいた所に二年生のH君が「三堀さん、結果はともかく、皆一緒に頑張って頑張ったんだから。」と言われて「そうだ、俺よりも先輩、同級生、そして先輩方の助けがあつてここまでやりとげる事ができたんだ。一生懸命やったじゃないか。」と努めて明るく振るまいました。

最後になりましたが、様々な形でお手伝いして下さいました人、特に、顧問を務めて下さった古川先生、先生らのど自慢に出て下さった半沢先生、各コンテスト・前夜祭・野外劇に出て下さった人、又それを陰で支えて下さった人に深くお礼を申上げて筆を置きます。



## 体育祭を終えて

三年 高野 慎哉

第九十七回収穫祭も無事に終わり、やっと日常の生活にもどろりつつある今日この頃であるが、思い起こしてみれば今年の体育祭はわけのわからないスタートだった。

まず何よりも自分自身今まで収穫祭に参加したことがないド素人であったこと、又、役員三名、スタッフ若干名という構成で、その上スタッフは他部門と兼任といういそがしい人ばかり、という本当に不安なものでした。体育祭委員長に決まった時は「まあ何とかなるだろう。」と思ったのが大まちがい、仕事の内容はといえば、バックボードの作製、応援合戦の練習、競技出場者集め、とほとんどパニック。連日連夜の作業にもかかわらず、バックボード作製はなかなか進まず、応援は何をして良いのか分からずオロオロ、出場者もなかなか決まらず、又、オロオロ。

しかし、収穫祭が近づくにつれ、一人、又一人と四号館に有志が集まり、やっとバックボードができあがったが、収穫祭はもう目の前。応援も型は決まったものの、練習不足で不安を残したまま体育祭当日になってしまった。

## 畜魂

三年 細野 淳

「今年の家畜苑は違うなあ。」この言葉が自分の耳に入ってくることを目標に心強い有志とともに97th収穫祭家畜苑は始まった。

正直な所、今回は自信がありました。自分を含む少数の仲間是一年次から経験しており、大体の流れは掴んでおり、アイデア等は浮かばないどころかまとめるのに苦労しました。人材集めは、さほど苦労せず家畜苑初体験ではあるが自分と気の合う中島や家畜苑の仕事を志願してくれた橋本を加え準備は万端でした。

まずパイプ運びからスタートをきるのですがこの時ばかりは大勢の人数が必要であり、そこで自分のもって生まれたこの顔にちょっと額にしわをよせ声をかけたら思った以上に人が集まり短時間で終わりました。パイプ組みは豚の方は金井が、牛の方では自分が中心に、その他門、監視塔などは、みんなで知恵をしぼり組み立てました。多少監視塔の組み立てでつまづいたけど仕掛けが早かったので予想以上に事が運び自分の頭の中に描いていた通りに進みました。しかし、このまま進むわけがありません。家畜苑を手伝ってくれたみんなは思い出すと思

しかし、フタを開けてみれば、他学科に畜産学科の闘志あふれるパワーを見せつけ、競技では、綱引き、リレーの優勝をはじめ、他の種目も好成績を残し、一番不安だった応援合戦では、同窓会からいただいた大太鼓のドカンパワーも手伝って堂々三位というすばらしい成績を残せました。

そして、成績発表では、色々とケチがつけましたが、総合三位という輝かしい成績を残せました。多分、今年の収穫祭が、自分の学生生活の中で一番思い出に残ることと思います。

最後になりましたが、顧問を引き受けて下さった門司先生、渡辺学科長先生はじめ諸先生方、ご協力して下さいました各研究室のみなさん、二年生、一年生のみなさん、ありがとうございました。そして自分を叱咤激励してくれた友達に感謝します。

うけど、そう十月三十一日夜の集中豪雨です。この時ばかりは、「やはり普段の行いが悪いと天罰がくだるのかなあ」と実感致しました。

牛の飼養管理は自分と笠井と志賀を中心に、豚の飼養管理は金井を中心に、鶏の飼養管理は河崎を中心に行っていたのですが一番被害を受けたのは牛でした。今回あまりにも外見（門及び監視塔など）に力を入れすぎ肝心な屋根が粗末になってしまい牛はびしょ濡れでした。乾草や敷きわらをふんだんに敷いたのですが全く無意味であり、「このままではまずい」と思い、思い切って牛達を動物舎へ移動しました。雨は朝方も残りせっかく塗った監視塔の屋根も自分達をあざ笑うかのように綺麗になっていました。予定は大幅に狂ってしまい、それに輪をかけたように仔牛の体調が悪くなり、もう涙が出る余裕もありませんでした。十月三十一日、前日は一睡もできなかったが、眠さなどは今までの余裕とともに吹き飛ばされてしまし、早朝から早速、除糞その他の準備にかかりました。牛の調子は、ますますひどくなり自分の手ではどうすることも出来ず、山中農場長をはじめ富士農場の教職員のみなさんと顧問を引き受けて下さった近江先生に御迷惑をおかけしたとともに自分の牛管理の未熟さを痛感し騒いでいたことに気付きました。

十一月一日収穫祭当日から三日にかけて畜産学科の顔の一つでもある家畜苑は例年のように大盛況でした。お客さんの家畜を見たときの笑顔が自分達にとっては最高



の喜びでした。

体育祭と重なった二日がかりの後片付けの際、金井、そして後輩のみんなには大変迷惑をかけずいませんでした。パイプを壊し、最後に家畜を無事返すまで家畜苑は終りません。家畜及び管理用具を返しに行った翌日、農大にいた頃がまるで嘘のように体調を崩していた牛達が、びよんびよん走っている姿を見た瞬間、初めて込み上げてくるものがありました。

家畜苑は本来、模擬店のような商売でなく文化学術展のように賞の対象になるものでもありませんが、家畜との触れ合いを通し作業を行った有志達にとっては心の中心の財産として大きく残るものと思います。思い起こすと本当に大変でした。寒さはそれ程、厳しくなかったけどやはり生身の人間、疲労にも限界があります。そんな中でも文句一つ言わず、自分の与えた仕事に精一杯取り組んでくれた有志達に感謝いたします。又先輩方々の心暖まる差し入れ有難うございました。月並みな言葉ではあります。自分達について来てくれた後輩のみんな、本当に有難う。来年は今年より一步でも上を行くよう、伝統ある家畜苑をすばらしいものにして下さい。それから時には自分以上にみんなを引張ってくれた金井、地味ではあるが会計という重要な仕事をしてくれた中島、いつも何かあるとグチを聞いてくれた志賀、時にはみんなの度胆をぬくぐらい男勝りに仕事をしてくれた橋本、それに笠井、河崎、本当に自分の力になってもらい感謝してい

## 北門装飾を終えて

三年 松坂道 昭

「昼、十二時十五分位に、会室に来るように」これが、自分にとっていろんな経験をもたらしてくれる事になった最初の言葉だった。

二限終了後、すぐに畜友会の役員会が行われる畜友会室へ行った。

「収穫祭の役員を決めているんだけど、あとこれだけ残っているんだ」と言われ、一番最初に目に付いたのが北門装飾の役員の所だった。副委員長は決まっていたので会計の欄を見た。

その次の瞬間、今回の収穫祭の疲らい道のりの始まりを告げるような一言が聞こえた。「北門装飾の会計は二年生に任せるから」そうなるに残りは、委員長しかなかった。

その日から委員長としての仕事が次から次へと入ってきた。

まず、学内の装飾部門の合同会議、正門装飾(アーチ)、一号館装飾(アート)、そして北門、まさかこのような大事な部署であるとは思ってもおらず委員長をかって出た自分が馬鹿だったと会議の後に痛感した。

ます。又、中山統一委員長、中井宣伝隊長をはじめ三年生のみんな、研究室の方も忙しかっただろうに合間を見ては手伝いに来てくれて有難うございました。あの十月三十一日の集中豪雨後の団結力と夜更けのキャプラーマンの味は一生心の中にしまっておいて下さい。

最後になりましたが、顧問を引き受けて下さった近江先生、平井農場長をはじめ厚木中央農場の方々、山中農場長をはじめ富士畜産農場の方々、そして渡辺学科長をはじめ各研究室の方々本当に有難うございました。来年も御迷惑をおかけすると思いますが、その時はどうぞよろしくお願い致します。自分は97th収穫祭家畜苑の委員長を務めたことを誇りに思います。



会議が始まると、それぞれの担当が意見を次から次へとやっていった。しかし、自分は一言も意見を述べる事なく終了した。

この時点では自分の頭の中に何の構想もなかった。会の帰り畜産学科の統一委員長である中山君に、「まずいよ、どうしよう。他の所はずい分進んでるのに」と言っていたが、彼にこんな事を言っても仕方がない事で、ただ自分へのなぐさめのようなものだった。

そしてしばらくして、また会議があった。今度は絵を書いてくれる事になった河崎君も来てくれたので、なんとか、会議において恥をかかないですむようになった。

いよいよ、一ヶ月間の長い道のりがスタートした。作業中には、色々勉強になる事が多く、自分の力のなさを身にしみて感じとった。

作業中、夜遅くこっそりといけない事をしたり、研究室では失礼な事をしてしまったり色々な事がありました。だが、文章で書けない位たくさん楽しい事、苦しい事がありました。

下級生の皆さんも、役員の人達と共に話し合い協力し体験してみたいかがでしょうか。

最後に、今回、お世話になりました栗原先生、場所を提供していただいて、どうもありがとうございます。4号館においては、各先生方にご迷惑をおかけ失礼いたしました。

それから、絵をかいてくれた河崎君をはじめ、無理な



仕事を協力して手伝っていたいただいた皆さんどうもありがとうございました。  
 来年は、いままでは無いものが出来上がる事を期待します。頑張ってください。



### 第97回収穫祭役員及び参加協力者

#### 本部

統一委員長 中山浩 (三年)  
 副委員長 三堀太郎 (三年)  
 会 計 長 吉田春昭 (二年)

#### 宣伝隊

隊長 中井義成 (三年)  
 副隊長 吉田春昭 (二年)  
 会 計 長 森下正道 (三年)

#### 前夜祭・特別企画

委員長 三堀太郎 (三年)  
 副委員長 保科幸広 (二年)  
 会 計 長 前迫明子 (三年)

#### 体育祭

委員長 高野慎哉 (三年)  
 副委員長 廣田武司 (二年)  
 会 計 長 中里みき (三年)

#### 家畜苑

委員長 細野淳 (三年)  
 副委員長 金井勉 (三年)  
 会 計 長 中島潤也 (三年)

#### 北門装飾

委員長 松坂道昭 (三年)  
 副委員長 早川寛二 (三年)  
 会 計 長 八木重道 (二年)

#### 参加協力者

宣伝パレード  
 三年 杉澤潤

|    |    |    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |
|----|----|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 一年 | 二年 | 三年 | 杉澤潤  | 藤田晴生 | 松坂道昭 | 高野慎哉 | 早川寛二 | 金井勉  | 石橋貴徳 | 打越秀一 | 廣田武司 | 八木重道 | 佐々木浩人 |
|    |    |    | 細野淳  | 渡辺進  | 藤田良朗 | 前田利光 | 吉川欣亮 | 中山浩  | 前迫明子 | 伊藤仁之 | 保科幸広 | 横井巖  |       |
|    |    |    | 吉池一広 | 中井義成 | 安野和幸 | 鳴嶋秀男 | 日下博詞 | 三堀太郎 | 今井士郎 | 森下正道 | 吉田春昭 |      |       |





前夜祭

内田 景子 前迫 明子 廣田 武司  
吉田 春昭 橋本 裕樹 廣瀬 一茂  
横井 巖 中井 義成 森下 正道  
吉原 幸夫 八木 重道

野外劇

中井 義成 前迫 明子  
吉原 幸夫 廣瀬 一茂  
吉田 春昭

特別企画

先生のど自慢大会

半沢 恵先生

のど自慢大会

原 啓子  
松枝 秀樹  
安原美津江

美人コンテスト

村木 力也

ミスター農大

吉池 一広

ミス農大

小川 久美

総合参加協力者

四年

伊澤 眞 和泉 孝  
浦川 淳 遠藤 健夫 岩崎 明美  
大谷 道生 岡崎 賢成 大島 雷王  
小川 向希 小川美代子 奥野 純人  
小野 裕也 小山 恭徳 甲斐 達之  
神永 憲一 神谷 悦寛 菊留 茂訓  
木村 道雄 吉良佐和子 楠田 淳  
窪田 一志 國米かおり 小林由紀子  
近藤 満之 坂根 誠人 齊藤 輝彰  
境澤 由記 澤田 敏彦 櫻井 睦  
佐々木和広 志田 政憲 塩島 光仁  
鎮野 謙一 関 邦恵 杉山智太郎  
鈴木 潔 武谷 志津 田中 茂穂  
高須 寛 塚越 賢 土屋 文明  
堤 信一 鶴飼 靖紀 手塚 久雄  
鳥山 雅庸 中西 陽一 中野千鶴子  
永田 憲正 永田 憲明 難波 欣也

三年

西木 美奈 沼田 恭  
芳賀 佳彦 畑 昌平  
原田 章彦 福岡 幹生  
藤本 貫大 松田 浩  
宮内 伸夫 宮腰 雄一  
山之内正弘 山本 孝徳  
横瀬 達洋 吉川 聡雄  
田川まり子 吉川 芳文  
合津 航 相原 武  
阿部 圭子 石渡 寛之  
伊藤 仁之 印南 裕之  
梅澤 淳一 大橋 育雄  
小野 郁子 秋葉 夕夏  
河崎 生充 上林 尚生  
木村 毅 久野 慎二  
倉形 方子 合原 博俊  
佐々木 保 三野 穰  
杉澤 潤 鈴木 和明  
関山 幸男 瀬下 徹  
高野 和也 高橋 徹  
田中 則子 玉置 浩二  
土屋千亜紀 鶴田 豊  
鳴嶋 秀男 生和 伸一  
蓮尾 知子 早川 寛二  
原田 章弘 福田 雄一

二年

藤田 晴生 藤田 良朗 舟戸 保典  
細川 勝 安野 和幸 伊藤 兼政  
前田 利光 松井 真一 松枝 秀樹  
水野 幸治 道見 健男 村木 力也  
村松 孝一 森 英 安原美津江  
横川麻紀子 吉池 一広 吉田 勝栄  
吉田 智之 了戒 実 渡辺 進  
浅田 毅 笠井 良彦 加藤 博之  
猪股 篤 印牧 裕樹 木村 泰子  
河野 正 橋本 幸夫 原川 竜也  
吉田 和博 吉原 一仁 大石 知英  
川戸 信司 黒木 一茂 野口 智子  
橋本 唯一 廣瀬 一佳 横井 巖  
松井 伸人 松園 哲也 村山 壮一  
相原 貴弘 山口 大輔 丑越 正一

一年

藤田 洋一 沼田 肇  
畑 育子 藤原 繁和  
水品 繁和 望月恵理子  
湯浅 弘美 李 忠憲  
浅井さつき 伊藤 透 内田 景子  
小川 久美 小川 弘子  
生方 弘子 吉川 幸男  
久保 幹夫 佐々木 淳  
志賀 忠市 鈴木 則幸  
外丸 祐介 田中 晃  
張 尤喜 中井 一徳  
橋本 香奈 原 啓子  
藤井 茂司



# 第97回収穫祭畜産学科統一本部決算報告

|          | 予 算     | 決 算     | 差引残高     |
|----------|---------|---------|----------|
| 統 一 本 部  | 170,000 | 190,255 | △ 20,255 |
| 前夜祭・特別企画 | 40,000  | 13,681  | 26,319   |
| 体 育 祭    | 40,000  | 17,940  | 32,060   |
| 宣 伝 隊    | 30,000  | 13,149  | 16,851   |
| 北 門 装 飾  | 10,000  | 9,977   | 23       |
| 家 畜 苑    | 10,000  | 50,525  | △ 40,525 |
| 計        | 300,000 | 295,527 | 4,473    |

上記相違ないことを認めます。

第97回収穫祭畜産学科統一本部会計 吉 田 春 昭  
 平町元年度畜友会会計監査 四年 堤 信 一  
 三年 金 井 勉  
 二年 橋 本 匡 司  
 一年 齊 藤 美奈子

# 第97回収穫祭結果報告

## 前夜祭・特別企画

総合順位 九  
 野外劇 五  
 先生のご自慢 七  
 学生のご自慢 十  
 美人コンテスト 八  
 ミスター農大 七  
 ミス農大 十一

## 体 育 祭

総合順位 三  
 農大競馬 三  
 玉 入 二  
 米俵レース 十一  
 教授びんびん大レース 八  
 農大健児の意気を見よ 一  
 1/10マラソン 八  
 " 学生 一  
 綱 引 九  
 引 き 九  
 くらねるあそぶ 九  
 教職員対抗リレー 九

各科対抗リレー 男子  
 " 女子  
 応援合戦  
 やぐら装飾

優 十一位  
 勝 十三位



畜友会だより

平成元年度臨時総会報告

平成元年七月七日、図書館四階視聴覚ホールにて平成元年度畜友会臨時総会が行われました。  
 総会には、正会員75名が出席。特別会員の先生方も多数出席していただきました。議長には家畜繁殖学研究室の難波欣也（四年）が選出され、左記の議題が承認されましたので報告致します。

- 一、畜友会規約改訂案について
- 二、畜友会役員選出

平成二年度定期総会報告

平成元年十二月二十日、一号館特一教室にて平成二年度畜友会定期総会が開催されました。  
 総会には、正会員71名が出席。特別会員の先生方にも多数出席していただきました。議長には、畜産物利用学研究室の高野和也（三年）が選出され、左記の議題が承認されました。

- 一、平成元年度事業報告及び会計報告
- 二、平成二年度事業計画案及び予算案
- 三、役員改選

平成二年度畜友会役員名

平成二年度の畜友会定期総会において信任された畜友会役員は、左記の通りで任期は平成三年度の定期総会までとします。

|      |       |        |
|------|-------|--------|
| 委員長  | 中井 義成 | 繁殖（三年） |
| 副委員長 | 三堀 太郎 | 利用（三年） |
|      | 廣田 武司 | （二年）   |
| 会計   | 高野 慎哉 | 衛生（三年） |
| 会計補佐 | 吉田 春昭 | （二年）   |
| 渉外   | 前迫 明子 | 生理（三年） |
| 企画   | 森下 正道 | 経営（三年） |
|      | 八木 重道 | （二年）   |

書記 中山 浩 利用（三年）

庶務 松坂 道明 飼養（三年）

早川 寛二 育種（三年）

平成二年度 畜友会役員





## 平成元年度畜友会事業報告

- 12月15日 昭和64年度(平成元年度)畜友会定期総会  
(於 図書館4F視聴覚ホール)
- 3月1日 会誌「ふじみの」発行
- 3月20日 卒業祝賀会, 卒業生記念品贈呈(於 217教室)
- 4月11, 12日 新入生学外オリエンテーションに参加
- 4月26日 新入生歓迎会(於 生協食堂グリーン)
- 6月1~17日 第19回学内スポーツ大会に参加
- 6月21日 第19回学内スポーツ大会慰労会(於 生協食堂グリーン)
- 7月7日 平成元年度畜友会臨時総会(於 図書館4F視聴覚ホール)
- 8月7日 収穫祭についての説明会(於 厚木中央農場)
- 10月5日 第97回収穫祭畜産学科統一本部開き  
(於 食協食堂グリーン)
- 10月31日~11月4日  
第97回収穫祭に参加(11月4日まで)
- 11月18日 第97回収穫祭慰労会(於 生協食堂グリーン)

## 平成元年度畜友会決算報告

(平成元年12月15日現在)

| 収入の部      | 予 算       | 決 算       | 差引残高      |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 前年度繰越金    | 220,049   | 220,049   | 0         |
| 会費収入      | 0         | 0         | 0         |
| 新入生       | 1,000,000 | 936,000   | △ 64,000  |
| 編入生・転校生   | 32,000    | 8,000     | △ 24,000  |
| 未納会員      | 310,000   | 70,000    | △ 240,000 |
| 利息        | 0         | 1,068     | 1,068     |
| 学 科 援 助 金 | 0         | 70,000    | 70,000    |
| 計         | 1,562,049 | 1,305,117 | △ 256,932 |

| 支出の部          | 予 算       | 決 算       | 差引残高     |
|---------------|-----------|-----------|----------|
| 卒業生送別会費       | 100,000   | 140,000   | △ 40,000 |
| 卒業生記念品費       | 200,000   | 200,000   | 0        |
| 新入生歓迎会費       | 100,000   | 91,638    | 8,362    |
| 「ふじみの」第28号印刷費 | 400,000   | 354,000   | 46,000   |
| 球技大会費         | 50,000    | 0         | 50,000   |
| 学内スポーツ大会援助費   | 100,000   | 82,091    | 17,909   |
| 夏期実習農場紹介費     | 10,000    | 9,424     | 576      |
| 収穫祭援助費        | 300,000   | 295,527   | 4,473    |
| 総務費           | 130,000   | 91,977    | 38,023   |
| 予備費           | 172,049   | 0         | 172,049  |
| 計             | 1,562,049 | 1,264,657 | 297,392  |

\* 卒業生送別会費の不足額は援助費より補充

収入総額 支出総額 次年度繰越金  
1,305,117 - 1,264,657 = 40,460

上記相違ないことを認めます。

平成元年度畜友会会計

沢田敏彦

平成元年度畜友会会計監査

四年 堤 信一 三年 金井 勉  
二年 橋本 匡司 一年 斉藤美奈子



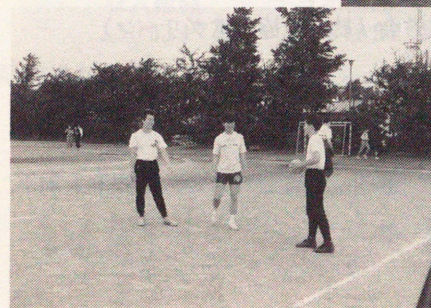
## 平成2年度畜友会事業計画(案)

- 12月上旬 平成2年度畜友会定期総会
- 3月上旬 会誌「ふじみの」発行  
下旬 卒業祝賀会, 卒業生記念品贈呈
- 4月中旬 新入生学外オリエンテーションに参加  
下旬 新入生歓迎会
- 6月上旬 夏期農業実津紹介開始  
第20回学内スポーツ大会参加  
第98回収穫祭畜産学科準備委員会発足
- 7月上旬 学内スポーツ大会慰労会
- 8月上旬 収穫祭についての説明会
- 10月上旬 第98回収穫祭畜産学科統一本部発足  
第98回収穫祭参加
- 11月中旬 第98回収穫祭慰労会
- その他(球技大会等)

上記が畜友会の今年の活動です。会員の方々の積極的な参加をおまちしています。

## 第十九回学内スポーツ大会結果報告

|          |      |       |
|----------|------|-------|
| バレーボール   | (男子) | 二回戦敗退 |
| バスケットボール | (女子) | 一回戦敗退 |
|          | (男子) | 三位    |
| バドミントン   |      | 一回戦敗退 |
| ハンドボール   |      | 二回戦敗退 |
| ミニサッカー   |      | 二回戦敗退 |
| ゲートボール   |      | 一回戦敗退 |
| テニス      |      | 優勝    |
| 相撲       |      | 準優勝   |
| 剣道       |      | 一回戦敗退 |
| 二十人なわとび  |      | 二回戦敗退 |





# 東京農業大学畜産学科 “畜友会”規約

## 第一章 総則

- 第一条 本会は東京農業大学畜友会と称す
- 第二条 本会は東京農業大学在学学生、教職員、及び卒業生をもって、相互の親睦をはかり、本学の発展に寄与することを目的とする。
- 第三条 本会の事務所は、東京農業大学畜産学科本部におく。

## 第二章 会 員

- 第四条 本会の会員は左記の三種をもって組織する。
- 一、正会員
- 二、特別会員
- 三、名誉会員
- 正会員は東京農業大学畜産学科在学学生、特別会員は東京農業大学畜産学科卒業生、並びに教職員。名誉会員は役員委嘱により承認を得たもの。
- 第五条 会員が本会の業務執行妨害あるいは名誉を失せる行為をした時は総会の議決により除名する。

## 第三章 役員及び機関

- 第六条 一、本会は、役員、クラス委員、及び監査をおく。
- 二、役員は委員長一名、副委員長三名、書記二名、会計一名、会計補佐二名、渉外四名、企画四名、庶務四名とする。
- 第七条 本会は顧問をおき、畜産学科長ならびに畜産学科主事が此の任にあたる。
- 第八条 一、第六条第一項の役員は、畜産学科各研究室の三年次生より一ないし二名の候補者を選出する。
- 二、クラス委員は、一、二年次生より若干名選出する。三年次生は、各研究室より一名ずつ選出する。
- 三、(1) 役員の学年は、委員長にあたっては三年次生とし、副委員長三名のうち三年次生二名、二年次生一名、会計は三年次生とする。
- (2) 委員長不在の場合は、副委員長が代行するものとする。
- 四、第六条第一項の監査員四名は各学年一名ずつ選出する。
- 五、第六条第一項のクラス委員は原則として五月に選出し、役員会の承認を得た後、直に公示する。

- 六、役員及び監査は定期総会において信任を得るものとする。
- 七、欠員が生じた場合、速やかに補充しなければならぬ。
- 但し、補充役員については、委員長が推薦し役員会において信任を得るものとする。

第九条 役員任期は原則として一年とする。

第十条 総会は正会員より構成され、本会の最高決議機関とする。

第十一条 一、総会は正会員の三分の一以上より成立する。

二、委任状は署名捺印（拇印を含む）を必要とし、議長に一任する。

三、委任状は総会に際し定足数に含まれる。但し、委任状は議長委任とし、正会員総数の四分の一までとする。

四、委任状の検査は役員が行なう。

第十二条 定期総会は年一回十二月に招集する。

臨時総会は左記に該当した場合一ヶ月以内に召集しなければならない。

一、正会員の四分の一以上の同意を得て、開催目的及び召集理由を記載し委員長に提出あるとき。

二、役員のおよそ三分の二以上が必要と認めたと

第十三条 定期総会に於いて次の事項を審議決定する。

- (1) 前年度の事業報告
- (2) 前年度の会計報告
- (3) 役員改選
- (4) 当該年度の事業報告
- (5) 当該年度の予算案
- (6) その他

第十四条 総会の開催は五日前に公示しなければならない。

第十五条 総会における議長は、総会においてその都度互選する。必要に応じて議長は副議長を指名する。

第十六条 総会の議決は、出席者の過半数によって議決され、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第十七条 総会出席者の過半数により役員の不信任を可決できる。

## 第四章 業 務

第十八条 第六条第一項、第二項に定められた役員は本会の最高執行機関たる役員会を構成する。この役員会の召集は、委員長が行う。

第十九条 本会の事業年度及び会計年度は十二月一日より翌年十一月末日までとする。



第二十条 本会は左記の業務を行う。

- 一、会員親睦会
- 二、講習会及び研究発表会
- 三、見学調査
- 四、機関紙の発行
- 五、その他第二条に附帯する業務

第五章 会 計

第二十一条 会費は年間二〇〇〇円とする。その納入は

四年分一括し、入学時に納入のこと。

第二十二条 本会の運営は会員の納入する会費で運営す

る。但し第十九条の業務執行にあたり臨時徴収する場合もある。寄附行為は認める。

第二十三条 納入金の払い戻しは行わない。

但し入学取消しの場合はその限りではない。

第六章 監 査

第二十四条 本会の業務を円滑、正常化する為監査委員

をおく。

第二十五条 監査委員は、前条の目的達成の為、年度末

に会計監査を行なう。

監査は監査委員が必要と認めれば随時でき

る。

第二十六条 監査委員は第六条第一項、第二項の役員の

兼任は出来ない。

第七章 附 則

第二十七条 本規定解釈の講義は、役員会において、最終的解釈する。

第二十八条 本規定の改正、及び追加は総会においておこなう。

第二十九条 一、本規定は、昭和三十五年六月二十九日より施行する。

二、本規定は、平成元年七月七日、一部改定

編集部では「ふじみの」第三十号の原稿を募集致しております。より一層充実したものとす為にも、名譽会員、特別会員、学生多数の御協力をお願いします。

記

募集期間 平成二年六月、平成三年一月下旬

要 項 論文、随筆、紀行文、主張

四〇〇字詰、十枚以内

写真カット、は随意

表紙図案、三色以内

宛 名 東京都世田谷区桜丘一―一

東京農業大学畜産学科内 畜友会

ふじみの編集委員会

発行日 平成三年四月予定

応募原稿は一切お返し致しません。

畜友会「ふじみの」  
編集委員会  
TEL(四二〇)二二二二(呼)

編集後記

「ふじみの」も今年で無事、29号を発刊できました。

この「ふじみの」も29年目に突入しました。しかし29年間ただ同じことを繰り返して来たわけではありません。この「ふじみの」は常に私たちとともに成長しているのです。この29号を読んでもれた皆様、それを感じて下されば幸いです。そして、この「ふじみの」をさらに成長させてくれる事を後輩達に期待し編集後記といたします。

最後になりましたが、忙しい中、原稿を書いていただいた先生方、ならびに会員の方々に厚く御礼申し上げます。

編集員一同

平成2年3月1日 発行

“ふじみの” 第29号

編集責任者 渡 邊 誠 喜  
編 集 長 中 井 義 成  
発 行 者 畜 友 会

東京都世田谷区桜丘1-1-1

発行所 東京農業大学畜友会

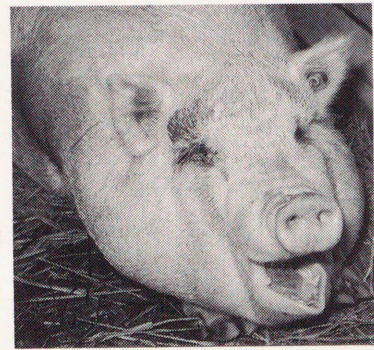
電話 (420) 2131 (呼)

東京都世田谷区経堂1-6-13

印刷所 エルデ・タイプ社

電話 (429) 1067





1990